

明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園子どものしあわせを願う会
発行日/1994年11月26日 住所/東京都板橋区大谷口北町23-1 ☎(3956)1068

16号

厚生省は少子・高齢社会に向けて「21世紀福祉ビジョン」を報告。年金、医療、特に国際比して立ち遅れている福祉の分野について思い切った水準を高めるべきと「エンゼルプラン」を提言。低年齢の受入れ・延長保育・一時的保育の拡大、地域子育て支援の推進をあげているが、具体的な内容は示されていない。一方で「民間育児サービスの育成」「措置制度の見直し」があげられています。費用を誰が負担し、国民が望むサービスの内容を誰が保障出来るのかが問題です。入院給食費患者負担が強行され、国民年金・厚生年金保険料・公団・都住宅賃・バス・地下鉄等、とめどなく値上げは続いています。村山政権の「人に優しい政治」はどこにいったのでしょうか。「ゴールドプラン」や「エンゼルプラン」が国民不在の政策にならないように声を出し行動していきましょう。

陽光保育園について

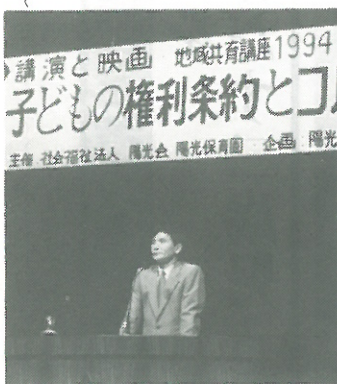
「後援会」など関係団体でもいろいろな行事を行っています。今回は、その一端として、この秋に行われた行事のなかからいくつかをご紹介します。

●映画と講演の夕べ 子どもの権利条約と コルチャック先生

9月24日/於・文化会館小ホール/
主催/陽光保育園/企画/陽光保育園
園子とのしあわせを願う会

ナチスに迫害されたユダヤ人の子どもたちを守り通したポーランドの伝説の人物、コルチャック先生。その後半生を描いた映画「コルチャック先生」を鑑賞し、子ども総合研究所所長の新保庄三さんのお話を聞き、「子どもの権利条約」についてみんなで考えよう、というのがこの「講演と映画の夕べ」企画でした。

新保さんのお話は短時間でしたが、コルチャック先生の人となりを十分知ることができましたし、同時に映画の魅力も十分伝わってきました。参加者のアンケートを見ると、戦争と平和を考えるうえで、また無権利状態での子どもの悲惨な姿を考えるうえでも、地道な活動を続けることがいかに大切かが改めて認識されたようです。16ミリフィルムのため字幕が読みづらいなど不備な点があったにもかかわらず、ご意見が多かったのもうれしいことで、企画する側としてはさらに力を得て、次に進んでいこうと思えました。



講演と映画 地域共有講座1994
子どもの権利条約とコルチャック先生

●学習会 ゆきとどいた教育をすすめるために 放課後の子どもたち

10月22日/於・陽光保育園ホール/
主催/陽光保育園後援会

陽光保育園の後援会では、三年前からの「ゆきとどいた教育をすすめるために」の学習会を開いています。これまで主に、小学校や中学校の先生をバネラー、あるいは講師としてお呼びして問題を提起していただいたり、子どもたちの現状や教育の現状について話を窺ったりしてきました。そして第7回目の今回は、

板橋区学童保育連絡協議会の前会長の大邑涼さんをお招きして、「学童クラブ」についてのお話を伺いました。学童クラブは、放課後の子どもたちの安全と生活を守るために、さまざまな運動をして共働きの父母がつくってきたものですが、一〇年ほど前、都から区に運営が移管されて以来、板橋区でも制度が後退しています。子どもをとりまく環境がますます悪化するなか、学童クラブの希望者は増加しています。学童クラブの制度を守り充実させていくためには親の団結が大切、と大邑さん。子どもたちが楽しく通える学童クラブを願って散会しました。

この学習会、今後も教育をめぐるさまざまな問題をとりあげていく予定です。

PART 2

陽光保育園 秋の運動会

10月16日/於・板橋第十小学校校庭

陽光保育園の運動会は、〇歳児から五歳児まで全員参加で行われます。今年はお天気にも恵まれて、子どもたちは元気いっぱい、日頃の成果を見せることができました。恒例の卒園児参加の民舞(荒馬踊り)も行われ、満場の拍手喝采をあげました。



ワ〜イ! 大きなおイモがとれたぞ

いもほり遠足

10月20日/練馬区田柄の農園

毎年、この時期に三、四、五歳児で行く「いもほり遠足」。今年の収穫は、とつても大きなおイモでした。とつたおイモで子どもたちのリュックはパンパン。欲張ってたくさん詰めすぎた子は、その重さに思わず泣きだす一幕もありましたが、それでもみんな、頑張って持ち帰りました。そのおイモを芋ご飯にしたり、焼き芋にしてみんなで食べるのも、楽しい秋の年中行事のひとつになっています。



★親子でいっしょに遊ぼう★

(地域の乳幼児・お母さんを対象に月1回園児と共に遊びます。)

●参加者アンケートからの抜粋

- Q参加していかがでしたか?
Aすばらしい保育園だと思う。リズムをする子供も生き生きとし先生方の一生懸命さがよく分かり、親も楽しかったです。
- A集団の中に参加して間もないのでとまどう事もありましたが、少しずつ慣れていく方が親も子もいいと思います。
- A先生方にゆっくり話を聞いていただいたり色々な質問にも答えていただけて私にとってとても充実した時間でした。
- Qお子さんの様子はどうでしたか?
A集団に慣れていないのでパニックになっていたのですが、次第に他の子供達とやる事に興味を持ち始めて来ました。
- A発達に合った玩具を借り、楽しそうによく遊びました。赤ちゃん体操やリズムを教えていただき気持ちよさそうでした。
- Q参加しようと思った動機は?
Aリズムをする事で普段使わない体を動かす事はいい刺激になると思う。家の中にも親がやれる事には限度があります(また、何が良いか分からないので……)。
- Q保育園の事、また子育てで知りたい事は?
Aリズムをもっと詳しく知りたい。知りたい事は山ほどあります。現在、新婦人で親子リズムをしています。

(ご協力、ありがとうございました)

★楽しいリズム、うた、散歩、砂あそび。気軽に参加下さい。

★動きやすい服装でおいください。無料です。

【場所】 陽光保育園
【時間】 午前9時~11時
【対象】 0歳児~5歳児

【今後の日程】

- ・12月21日(木)……とん汁大会
- ・1月10日(火)……新年もちつき大会
- ・2月9日(木)・3月7日(火)

★参加ご希望の方は事前にご連絡下さい。TEL 3956-1068



- 忘年会 12月17日(土) 午後7時
於 大谷口2丁目集会所
- その他 新春落語会 など計画中です。

- ★陽光保育園後援会行事予定
- 冬のバザー
12月3日(土)……古着市
4日(日)……食堂・喫茶・贈答品・雑貨・手作り品等
- ベルマーク……常時受付
回収は保育園出入口の黄色の箱

- ★陽光保育園父母の会行事予定
12月11日(日)クリスマス会のついで
・会場 産文第一会議室
4月23日(日)春のついで
●廃品回収……毎月第4土曜日
新聞・雑誌・牛乳パック・アルミ缶を中心に回収(ごん類)に関しては回収出来なくなりました。ご了承下さい。その収益で年一回人形劇などを企画。地域の子供達も招待して喜ばれています。

- ★九五年度四月入所 園児募集中!
来年度四月からの入所申請が始まります。詳しいことは「広報いたばし」を見て下さい。受付は福祉事務所。申請案内は保育園にもあります。
4・5歳児は現在でも入所可能です。

- ★団体 有限会社美登里 ■募金箱他
ひまわり募金……左記の口座で随時寄付金として受付けています。
郵便振込口座
0014015125167
加入者名
社会福祉法人陽光会 陽光保育園
ひまわりテレフォンカード:お申し込みは、保育園事務所まで(千円)

- ★個人 波方正男・飯口フジ子・藤田順一・田島礼子・田中良雄・渡辺勉・島田静雄・松尾真理子・浅木常子・小野ミサ・椎橋晴子・森谷健二・中山朝温・白川喜子・奥山シゲ子・松岡ヨシエ・杉坂博志・嶋下敏子・齋藤絹子・磯野清美・上平謙・高木秀文・文沢信彦・関原幸子・辻・高明・佐々木ひろみ・星野泉・佐藤・建部・高橋ミツイ・山村富江・徳留人美・堀田京子・藤枝朝子・浦山恵美子・菅井政代・榎本洋子

赤ちゃん時代を

ぬけだす二歳児

「ジブンデ スルー！」

二歳の誕生を迎える頃になると、今まで靴を履くのも、服を着るのも大人にやってもらっていたのが、大人の手を払いのけ、「ジブンデ！」と主張しはじめます。それを無視して大人が、どンドンやってしまおうと、「イヤ！イヤ！」と大泣きをして、床や道路の上でも横たわり、收拾がつかなくなってしまう。こんな時には手間がかかっても、「ジブンデ！」という主張を尊重し、再度やりなおしをすることで気持ちを立て直すことができます。このように何でもやろうと試みる力が、身辺の自立にもつながり、自分でやれる事がふえていきます。



みんなと いっしょ

保育園での子どもの姿の中で汚れたものを自分の袋に片付けられる、尿意・便意を感じ自らトイレに行けるので失敗がなくなる、スプーンを使って自分で食べられる、衣服の着脱ができる等々……、幼児期にむかって成長しはじめています。



このように伸びようとする力が、仲間がいることで、二倍・三倍にと大きくなっていきます。嫌いなニンジンでも「○○ちゃんみてね！」と言っただけで、大きな口を開けて食べてしまおうとか、「○○ちゃんはお兄ちゃんだから食べちゃったよ！」と言うと、「ボクモ」「ワタシモ」と出来なかつたことに挑みはじめます。今年の夏のプールでは、S君がはじめに「ドボン！」と、顔を水の中につけたことをきっかけに、「ボクモ」「ワタシモ」と次々と水という抵抗をのりこえて出来るようになったことは、驚きでした。

遊びの面でも、R君がイスを使って電車を走らせると、一人、二人と集まってきて同じような電車を走らせたり、電車ごっこがはじまります。「のせて」「アイヨ」「どこにいくんですか?」「コウエンデス!」「ハイ!ツキマシタ」と運転手になりきって楽しんで、お人形を赤ちゃんにみたくて、おあきさんになって、ミルクを飲ませたり、お布団に寝かせたり等々、日常生活での経験を再現できるごっこ遊びが大好きになります。この中で対話もうまれ、社会性を身につけていきます。

あつちがいいか こつちがいいか

二歳児は、二つの世界の中で生きています。おやつを食べる時も、大きい方をとるか、小さい方をとるか決めてからとりまわす。折り紙なんかでも二色出してあげて、どっちにすると言おうと、好きな方をとりまわす。この時、男の子だから青い方とか、いつも赤ばかりとっていたからと今度も赤を大人が手渡ししてあげると、意に反したとでも言うように拒絶したり、泣きだしたりします。たとえ自分がそう思っているとしても、人からやられるのはいやなのです。自分でこつちがいいと選びたいのです。

例えば、ジャングルジムに乗って遊んでいて、なかなか下りてこない時に、「だっこして下りるの、自分で下りるの」と二つのことを出してあげると、「自分で下りる」と自分で決めます。これが、子どもの自我を育てるし、子どもの世界を大切にすることなのです。

(2歳児担任 高田礼子)

子育て一分メモ 子どもとかせ



乳幼児期は、一年に一〇回ぐらいかぜをひくのは普通だと言われ、一〇歳頃になるまでに二〇〇種ほどのかぜウイルスに感染するとも言われています。大きくなるにつれて、しよつちゅう熱を出すということがなくなるのは、かかりながらかぜウイルスに対する抗体がつくられて、抵抗力がついていくからです。どのウイルスでも症状は似ていて、鼻水、くしゃみ、咳、発熱の他に嘔吐、下痢を伴うことが多いようです。ひきはじめの症状が軽いうちに無理をさせないで、家庭でゆつたりと過ごせれば回復も早いでしょう。冬は特に空気が乾燥しているのでほこりが多く、ほこりの中にはウイルスや病原菌がいつぱいいます。外出や人ごみに連れて行くなどは、子どもが小さければ小さいほどできるだけ避けたい方が賢明でしょう。(看護婦 富田緑子)

後援会秋の交流会

ハイキングに

参加して!

11月16日。生憎の小雨。でも、陽光保育園ならではの「やるよ!」の決定。高麗の駅に着いた時はまだ小雨が降っていた。「大丈夫、シートで屋根をつくれれば出来るあくまで強気。巾着の川原へ着いたら直ちに全員で屋根づくり、火おこし、焚火づくり。焚火にあつたまわってたら何かほしくなる。「焼き芋をよろろ」そこで芋の買い出し。ぬかるみの中を近くの雑貨屋へ。でも、その店にはなく、そこで紹介された所は何と日高町の文化祭会場。広場では産直の野菜、手作りお菓子等も売っている。野菜

がとっても安い。思わず買って帰ろうか、でも大変だ。仕方なく20本くらいサツマイモを買い、ついでに名物だという四里(しり)餅を買う。後でみんで食べたが、中に入っているアンコも上品でとっても旨かった。買い出しを終えて帰ってきたら、もうお昼の食事が始まっていた。大急ぎでお鍋の近くに駆けつける。どんぶりによそってもらったのを食べたら「旨い!」。肉、野菜、魚など色々な物が入っている。雨が降ったり上がったりの天候にはびつたり鍋だ。ずーんと胃に響く。最後にはうどんも入ってお腹の中が温かくなった。それで片づけて帰ると言う。ちょっと物足りない。



は紅葉もあって、秋の気配がいつぱい。いい天気だったからハイキングには最高だったかも(しかし晴れて日和田山に登っていたら来なかった)。ともあれ宮沢湖までのハイキングはとっても楽しかった。小雨だったにもかかわらず思わぬハイキングが出来てしまった。(小内 康寛)

お父さんの 出番です!

「お〜いお父さん出番ですよ!」とお母さんの悲鳴? 子供の期待? が聞こえてきそうな現代社会です。核家族化でおいしいちゃんやおばあちゃんもいない、ローンや家賃・教育費などでお母さんも仕事をしなくてはいけない、子供と接する時間も少なく、みんなからこんな声が聞こえてきそうです。それに比べてお父さん、家庭はパンクしちゃうはず。どこの家庭でもそんなギリギリの状況なのではないでしょうか。

朝六時三〇分、「おはよう」のお母さんの声で、お父さん、そして私の一日が始まります。そもそもネボスケの私達は着替えるまで三〇分掛かり、食事の時間に四〇分掛かり、結局、一〇〜一五分オーバーするのです。送り担当のお父さんの悪苦戦奮闘の始まりです。手ぶらで保育園に行けないのは出掛けに両手いっぱい荷物? (自分で作ったブロックの恐竜や電車、折紙で作ったトンボ、またマンガキャラクターの人形各種、そしてスヌーピーの安心タオル等々)。

その中から、なだめてなんとか一個か二個を持たせて保育園へいざ出発。山あり谷ありの道を二〇分、自転車の前に、後に、とくに月曜日の朝は前カゴの中も荷物でいっぱい。家を出てから二分、どう転んでも降りて押しで行かなければならない坂が二〇メートル続きます。

最後の難関は佑との別れです。体調や機嫌のよい時はすんなりバイバイ出来るのですが、そうでない時は、グッコをせがまれ、泣きじゃくり、一生の別れのような雰囲気です。その時はもうどうにもならず、保母さんに助けを求めらう事しばしばです。最近では少なくなりましたが、まっ朝の二〇分のドラマは繰り返され、晴れてゆつたりおしゃべりしたりしますが、雨や風、寒い時等は、小さな体で自然との戦いに耐えている姿を見ると心が痛みます。お父さんと一緒に頑張るんだ! なんていう存在になれれば良いと思います。

「苛立ちの踏切」では危険がいつぱいあります。必ずこの場所でストップさせられます。待っている間にどんどん人も車も増えて、渡る時には一つの技術が必要で、踏切を渡ってすぐ左折したいのですが、対向から来る人や自転車・バイク、後ろからの直進車などをうまくかわさないといけないのです。そこを渡ると環七を越えてグラグラ川越街道をゆつくり登り、陽光に到着です。

子供や家庭においてお母さんが果たしている役割や影響は多岐にわたります。お母さんへの感謝と世のお父さんへ、私も含めて一つでも多くの「お父さんの出番」を増して円満な家庭を作りたいものです。(5・3歳児クラス 匠 佑の父 伊藤治広)